

中間自己評価

(平成26年度)

石川県立輪島高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	判定	成果・課題・改善策
1. 心豊かで地域愛にあふれた人財の育成 ①地域を教材とした探究的学習と体験的学習 ②地域の行事や事業への積極的参加 ③地域の小中学校との連携事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ポスターセッション ・地域活性化プロジェクト ・インターンシップ 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に地域と関わり、地域への理解を深めることができた A できた B ある程度できた C あまりできなかった D できなかった 	<p>A 23%</p> <p>B 49%</p> <p><u>A+B 72%</u></p>	<p>成果：ポスターセッションに向けての地域調査を行ったり、インターンシップに積極的に参加したり、地域理解を深めさせることができた。</p> <p>課題：インターンシップの成果発表(ポスター掲示)の質を向上させること。</p> <p>改善策：事後指導の体制を見直す。事業終了後に担当者会議を開催して指導法と担当者の役割分担を再確認し、個別指導にあたる。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ボランティア参加 ・地域行事参加 ・校外美化活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア等の活動によって、「地域貢献」や「地域への感謝」が大切であると理解できた A 理解できた B ある程度理解できた C あまり理解できなかった D 理解できなかった 	<p>A 24%</p> <p>B 46%</p> <p><u>A+B 70%</u></p>	<p>成果：地域の行事やボランティア活動に参加し、積極的に地域に関わろうとする姿勢を持たせることができた。</p> <p>課題：体験活動の質を向上させること。</p> <p>改善策：生徒に参加させたい地域行事やボランティア活動を精選し、情報を提供する。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生との学習交流 ・小中学生との交流イベント ・中高の連絡協議会 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育系の進路を志望する生徒数が A 10人以上 B 6人以上 C 4人以上 D 2人未満 <ul style="list-style-type: none"> ・学習交流やイベント参加生徒のうち、地域に貢献でき、自分も成長できたと感じた生徒の割合が A 70%以上 B 50%以上 C 30%以上 D 30%未満 <ul style="list-style-type: none"> ・中高連携事業によって、地域の教育力の向上に貢献できたと考える教員の割合が A 70%以上 B 50%以上 C 30%以上 D 30%未満 	<p><u>16人 A</u></p> <p><u>54% B</u></p> <p><u>61% B</u></p>	<p>成果：個人面談等の助言によって、徐々に教員を志望する生徒が増加した。</p> <p>課題：志望校に合格できるように学力を向上させること。</p> <p>改善策：1・2年生を対象に中高学習交流会等の機会を設けるなど、より早期に志望を確定させ、学習意欲向上へと繋げる。</p> <p>成果：地域の小中学生を「教える」という体験を通して、地域貢献意識が高まり、達成感を持たせることができた。</p> <p>課題：より多くの生徒に、地域に貢献できたという意識や達成感を持たせること。</p> <p>改善策：事業を立案する際に、参加生徒が小中学生と協働し、指導する機会を増やす。</p> <p>成果：連携事業を担当した教員だけでなく、本校のすべての教員が輪島中学校の授業を参観し、生徒の状況や連携事業について理解を深めた。</p> <p>課題：本校の学校公開において、中学校からの参加者を増やすこと。</p> <p>改善策：文書による案内だけでなく、電話等で直接参加を呼びかける。</p>
学校関係者評価委員会評価	<p>①地域の課題を見出し、調査を行い、データに基づき解決策を考察し、その成果をポスターセッションで発表している。こうした探究的な学びのプロセスやプレゼンテーション等を通して汎用的資質・能力を育成しようとする今日的な取組は評価できる。②地域の行事・事業に参加したり、インターンシップの経験を通して、地域貢献の重要性を理解し、また積極的な姿勢が育まれている。③小学生児童に教えたり中学の授業を参観したりしながら、12年間の学びの連続性・一貫性を意識した学校間連携を充実させている。これと連動して、教育系に関するキャリア教育にも取組んでいる。重点目標1に関しては、時代の変化・要請を見据えつつ、年々評価が改善されてきており、心豊かで地域愛にあふれた人財の育成に実質的に寄与しており、概ね満足な状況である。</p>			
評価結果を踏まえた改善策等	<ul style="list-style-type: none"> ・心豊かで地域愛にあふれた人財育成に視点を置き、地域の理解とその課題を考えることができる環境作りに努める。 ・地域連携事業に教員間、生徒間の協働的取組をふやし、本校指導による地域連携を推進する。 			

石川県立輪島高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	判定	成果・課題・改善策
2. 課題発見・解決能力、コミュニケーション力の育成 ①多面的・論理的に考察し、適切に表現する学習(普通科) 多面的・実務的に考察し、総合的に実践する学習(総合学科) ②学習課題と連動させた授業 ③グローバルな視点に立った学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別学習課題(教材)の作成 学習課題と連動させた授業実践 多面的に思考させ、適切に表現させる授業実践 「生徒による授業評価」結果に基づく授業改善 ICT機器の活用 学習時間調査 	<ul style="list-style-type: none"> 授業を受けることにより、思考力、判断力、表現力が向上したと考える生徒の割合が A 80%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満 	普通科 79% B 総合学科 73% B 77% B 68% B	成果：生徒は概ね授業により思考力、判断力、表現力が向上したと考えている。「国語」「数学」「商業」の評価が80%以上となっている。 課題：教員側はまだ不十分と感じているため、さらに思考力、判断力、表現力を向上させること。 改善策：多面的に思考させ、適切に表現させる授業実践を行う。 成果：ICT機器を活用し、授業を改善しようとする教員の意識が高まった。 課題：ICT機器準備のための労力や教材開発のための時間捻出が負担とならないようにすること。 改善策：プロジェクターを各教室に配置するなど、環境整備を行う。
	<ul style="list-style-type: none"> 世界事象の教材化 外国語教材の活用 ポスターセッション 	<ul style="list-style-type: none"> グローバルな視点を持つことができるようになったと感じる生徒の割合が A 80%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満 	普通科 52% C 総合学科 75% B 61% B	成果：普通科3年以外では68%。概ね生徒はグローバルな視野を持つことができるようになったと感じている。 課題：普通科3年の割合を増加させること。 改善策：学習した事項が多方面・他分野に発展する事例を紹介するなど、グローバルに思考する場面を設ける。
	<ul style="list-style-type: none"> 地域活性化プロジェクト 各種プレゼンテーション ビブリオバトル(書評合戦) 	<ul style="list-style-type: none"> 行事等を通じてコミュニケーション力を高めることが A できた B ある程度できた C あまりできなかった D できなかった 	A 32% B 53% A+B 85%	成果：生徒間で互いに連携・協力・支援し合う姿勢ができ、コミュニケーション力は高まっている。 課題：「自立した社会人」にふさわしいコミュニケーション力へと高めること。 改善策：各行事の企画・運営の際に、より一層生徒が主体となって取組む機会を増やす。
学校関係者評価委員会評価	①思考力・判断力・表現力等の育成に関して、普通科と総合科それぞれで目指す資質・能力を明確にした授業を設計、実施し、生徒・教員双方からの評価を行っている。ICT機器の活用につき、教師・生徒双方の活用を促進することが望まれる。②学習課題と連動させた授業として、課題解決型・探究型の学習がなされているか検証が期待される。③グローバルな視点に立った学習指導に関しては、受験対策との乖離が見られるものの、授業での教材開発や課外での活動を通して、多面的・多角的な視野、グローバルマインド、コミュニケーションスキルを育成するよう配慮されている。重点目標2に関しては、グローバル化を視野に入れつつ、課題発見・解決能力やコミュニケーション力の育成に意を注いでおり、全体として、概ね満足な状況である。			
評価結果を踏まえた改善策等	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を整備し、教員・生徒が利活用できる環境を整備する。 課題解決、探究型への授業に取組み、学習課題と連動した授業改善を進める。 生徒にグローバルな視点を持たせながら課題発見・解決能力やコミュニケーション能力の育成を行う。 			

石川県立輪島高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	判定	成果・課題・改善策
<p>3: 普通科・総合学科の相乗効果による教育力の向上</p> <p>①普通科と総合学科が協働した取組</p> <p>②部活動の活性化</p> <p>③3年間を見通した進路指導体制の確立</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活性化プロジェクト ・チャレンジウォーク ・全校挨拶練習 ・登校指導 ・教師力向上研修 	<ul style="list-style-type: none"> ・普通科と総合学科の生徒が協働して行事に取組むことができた A できた B ある程度できた C あまりできなかった D できなかった <ul style="list-style-type: none"> ・自分ではTPOに応じて、適切な挨拶が A できている B ある程度できている C あまりできない D できない <ul style="list-style-type: none"> ・不注意による遅刻者数が、前年に比べて A 10%以上減少 B 10%(未満)減少 C ほぼ同数 D 10%以上増加 	<p>A 15% B 42% <u>A+B 57%</u></p> <p>A 29% B 57% <u>A+B 86%</u></p> <p><u>62% A</u></p>	<p>成果：両学科が互いに刺激し合う形で一体感のある挨拶練習を行うことができた。</p> <p>課題：学校行事全般を通して、両学科が協働して取組んだという実感を伴う企画を増やすこと。</p> <p>改善策：体育祭や球技大会など、後期の行事で、両学科が協働して行うことができる企画・取組を盛り込む。</p> <p>成果：多くの生徒が明るく挨拶を交わすことができている。</p> <p>課題：自ら挨拶をすることができない生徒も見られること。</p> <p>改善策：挨拶の苦手な生徒に対しては、教員から積極的に声かけをし、コミュニケーションの機会を提供する。</p> <p>成果：生徒会と連携して継続している遅刻防止の取組みが生徒に周知され、成果が上がっている。</p> <p>課題：7月から遅刻者が増加し、不注意による遅刻0の日数も伸び悩んでいること。</p> <p>改善策：特定生徒の遅刻が多いので、全体指導は継続しつつ、個人への指導を充実させる。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・部活顧問一担任交換会 ・地域指導者の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に部活動に参加することが A できている B ある程度できている C あまりできていない D できていない 	<p>A 53% B 28% <u>A+B 81%</u></p>	<p>成果：生徒は積極的に部活動に参加している。県内の大会で入賞するだけでなく、全国大会にも出場を果たした。</p> <p>課題：部活動と学習の両立を図るための時間調整や、気持ちの切り替えが難しいと感じる生徒がいること。</p> <p>改善策：部活動顧問と担任が情報を共有し、共通理解を持って指導にあたる。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・「3年9期の取組」 ・学習合宿 ・1日学習会 ・難関大学体感旅行 ・8校連携事業 ・オープンキャンパス参加 ・大学模擬授業 <ul style="list-style-type: none"> ・「第1志望実現の取組」 ・インターンシップ ・キャリア教育講演会 ・資格、検定、面接支援 ・課題研究発表会 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初の模試より合格の可能性が高まった(模試成績を向上させた)生徒が A 80%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満 <ul style="list-style-type: none"> ・第1志望の内定率が A 80%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満 	<p>1学年 未判定 2学年 65% B 3学年 47% C (前年度1月～7月のデータ)</p> <p>A 81.3%</p>	<p>成果：2学年は、7月模試で成績を向上させた生徒が60%を超えた。(前年度の1月模試との比較)</p> <p>課題：3年生は応用問題に対応できる実践的な力の育成が必要であること。</p> <p>改善策：放課後補習や個別指導等で、さらに思考力を高めるとともに、演習量を増やす。</p> <p>成果：早期から就職試験を生徒に意識させ、面接対策として複数の教員による入念な指導を実施することで、多くの内定を得た。</p> <p>課題：希望する業種・職種についての理解が浅いため、多くの職種について知る機会を増やす。</p> <p>改善策：インターンシップ後の自己評価を行うとともに、他の生徒が体験した業種についての情報を得るため、報告会を実施する。</p>
<p>学校関係者評価委員会評価</p>	<p>①徳育的側面について、学校行事全般を通して普通科と総合科の生徒が協働し、挨拶奨励や遅刻防止に主体的に取り組んでいる。特に、教師による生徒指導から、生徒による共同体形成へと視点を移している点が評価される。②部活動が活性化しており、上位大会への出場へと繋がっている。部活動活性化と学力向上が互いの波及効果として現れることが期待される。③「3年9期の取組」や「第1志望実現の取組」という3年間を見通した進路指導体制が両科ともに組織され、良好な成果を挙げている。重点目標3に関しては、普通科・総合学科の相乗効果を意識した特色ある施策を打ち出しており、概ね満足な状況である。</p>			
<p>評価結果を踏まえた改善策等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・両科の特性を活かした事業にそれぞれの科が参加し、協働することで相乗効果を図る。 			